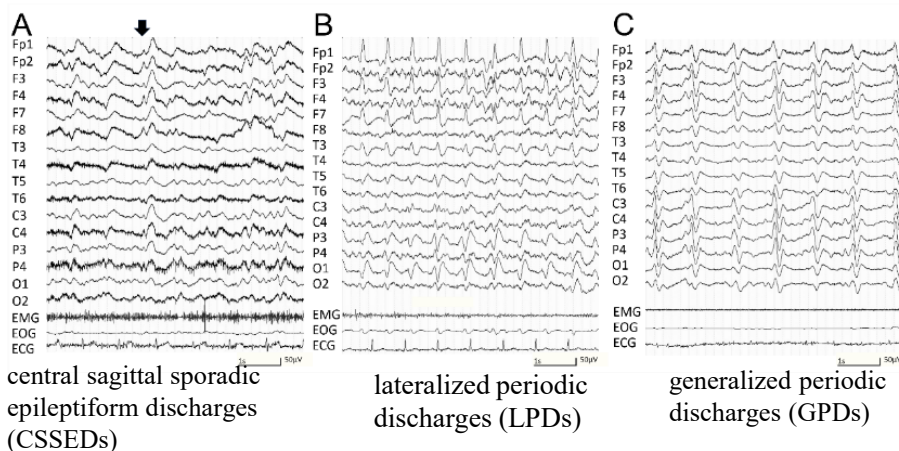


孤発性クロイツフェルト・ヤコブ病とてんかん重積の鑑別における脳波上のepileptiform dischargesの解析

研究分担者: 東京科学大学脳神経病理態学(脳神経内科),
国家公務員共済組合連合会九段坂病院 三條伸夫

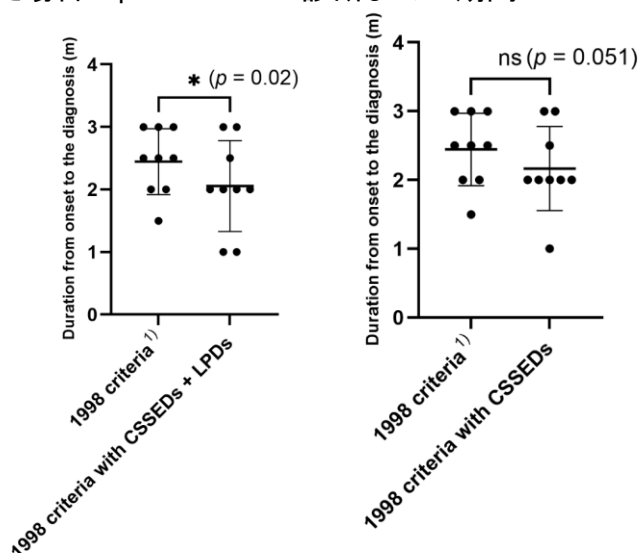
1. MM1/古典型 sCJD群の脳波上のepileptiform discharge



MM1/古典型 sCJDおよびてんかん重積の脳波において、左記の3種類のepileptiform dischargeを解析した。

MM1/古典型 sCJD群において、CSSEDs、LPDsはそれぞれ5例(55.6%)、1例(11.1%)に検出された。SE群において、CSSEDs、LPDsはそれぞれ1例(5.0%)、2例(10.0%)に検出された。

2. WHOの診断基準の脳波の診断項目にepileptiform dischargeを加えた場合のprobable CJD診断までの期間



解 説

1. 脳波上のCSSEDsはSE群と比較し、MM1/古典型 sCJD群において高頻度に検出された。一方、LPDsはSE群において高頻度に認めた。
2. CSSEDsおよびLPDsは、WHOの診断基準の脳波の診断項目に加えた場合のprobable CJD診断までの期間を有意に短縮させた。CSSEDsのみを診断基準に加えた場合、優位差はないものの平均診断期間を短縮する傾向があった。